茨城県立大洗高等学校　｜　校長室だより　26 号［やさしい日本語版］

「いいね」の、その先へ



令和 8 年 10 月 26 日（月）発行　文責：新堀　隆久

今週、伝えたいこと

「なんかいい」「なんかちがう」の理由を探して、言葉にしよう。
それが、考える力になる。

今週、考えてみてください。　あなたが「いいな」と思ったものの、その理由は何ですか。

「この曲、いいよね。」「あの演奏、すごかった。」友達と、そんな話をすることがありますよね。では、「どこが、なぜ、いいの？」と聞かれたら、答えられるでしょうか。

私は昔、「批評」について研究しました。批評というと、人の悪いところを言うことだと思われがちですが、そうではありません。私が考えた批評は、次のような流れです。

① 何かに出会って、心が動く（共感、違和感など）

② 「好き」「美しい」「正しい」などと判断する

③ そう思った根拠や理由を確かめる

④ 他の人にも納得してもらえるように伝える

大切なのは、最初の「なんかいいな」「なんかモヤモヤする」という心の動きです。そこから「なぜだろう」と理由を探し、言葉にする。これは、学校で学ぶ「思考力・判断力・表現力」そのものです。

高校の国語の授業で、好きな曲の歌詞を読んで、その魅力を文章にしてもらったことがあります。ふだん聞き流していた歌詞の思いに気づいたり、自分が心を動かされた理由を確かめたりする生徒が、たくさんいました。

みなさんの「いいね」にも、きっと理由があります。次に心が動いたとき、「どこが？なぜ？」と自分に聞いてみてください。そして、友達や先生に話してみてください。先が見えにくい今の時代、自分の考えを持ち、伝える力は、あなたを支えます。

文化祭の準備では、友達と意見がちがうこともあるでしょう。そんなときは、「私はこう思う。なぜなら…」と伝えてみてください。校訓の「友との協和」とは、ちがいを大切にしながら、理由を話し合うことだと思います。

実は、この批評の活動は、就職試験や進学の志望理由を考えるときにも役立ちます。理由をことばにする練習は大切です。